



国際通貨研究所メールマガジン (第 13 号 2013/4/10 発行)



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)

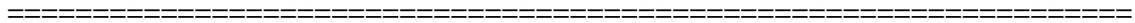


<http://www.iima.or.jp/>



※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。



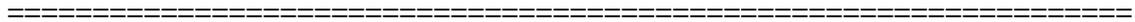
1. 理事長 行天豊雄のコラム 『波乱要因出尽しか?』

アベノミックスによる円安をきっかけに外為市場が動き出し世界的に新局面入りかと思われたが、ここへ来てどうもそうでもなさそうな感じになっている。相場を動かさそうだと思われた要因がいずれも力不足らしくなってきたから…

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/gyoten20130410.pdf>



2. 経済調査部長 兼 開発経済調査部長 佐久間浩司のコラム 『IT 革命その後』

先日、ある経済誌に **The rise of the sharing economy** という記事が載りました。個人が、部屋、車などの資産を貸し借りし合う「シェア・エコノミー」と呼ばれる世界が出現しつつあるという特集です。経済効果として、小売業…

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/sakuma20130410.pdf>

1. 「Occasional Paper 第 24 号」 (日本語版・英語版)

2012 年 10 月 13 日開催の国際シンポジウム「G ゼロ時代の成長と回復の原動力～リーダーなき世界における責任と役割～」の纏め。

(日本語版) [http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP\\_No24\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP_No24_j.pdf)

(英語版) [http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP\\_No24\\_e.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP_No24_e.pdf)

2. 「中南米諸国の構造改革 ～構造改革進捗の測定の試み～」

本稿は、Eduardo Lora 著の米州開発銀行ワーキング・ペーパー「Structural Reforms in Latin America: What Has Been Reformed and How to Measure It (Updated version)」(No. IDB-WP-346、2012 年 12 月)を紹介し、若干の考察を加えるものである。

構造改革指数は中南米各国の構造改革の進捗度をできるだけ客観的且つ共通の尺度で計測し、比較や分析を可能にしようとする試みである。こうした分析は他地域の新興国経済にも応用が可能だろう。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_11\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_11_j.pdf)

3. 「マレーシア経済の現状と課題」

近年は同国が「中進国の罠」に嵌っている事がしばしば指摘され、ASEAN 域内の地位も相対的な低下傾向にある。マレー系優遇のブミプトラ政策の見直しや自動車産業の競争力の確保の問題など、難しい構造改革の課題に対する今後の取り組みが注視される。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_09\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_09_j.pdf)

4. 「国際金融界への復帰が一層遠のくアルゼンチン」

同国は 2000 年代末以降国際金融界への復帰を模索してきたが、最近 2 年程度で



[HP] <http://www.iima.or.jp>

\*\*\*\*\* Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.\*\*\*\*\*